

二〇二二年一月二十九日

宝塔の屋根に集ひて寒雀

なつき

霰打つ打たるる儘に万歩計

うつぎ

冬の日の光芒ひろぐ風の海

わかば

冬風の沖は補陀落かと思ふ

素 秀

寒月や猫の密会ガラス越し

素 秀

力石 四角 三角 宮 四 温

はく子

あひ互い声かけそびるマスクかな

凡 士

さざんかの花びら載せて力石

はく子

朝詣で供花のバケツの厚氷

よう子

雪時雨人影のなき直売所

愛 正

指先で山崩し選る初みくじ

なつき

風花が向かってくるよ一両車

よし子

北風に押されてかへる家路かな

む べ

タイヤ跡S字を描く雪の朝

こすもす

朝日出づ霜のダイヤを散りばめて

うつぎ

浮き玉の一つ一つに冬鷗

素 秀

雪しまく五重の塔のシルエット

よう子

寒禽の声に研がるる力石

うつぎ

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二二年一月三〇日

風花や高灯籠の苔むして

はく子